

「私たちの一つ一つの背後に働かれる神」創世記37：1～11 12・3・18

創世記37章から50章には、神の不思議なみわざが記されている。これを深く読む時、この箇所の本当の主人公が神であると気づかされる。ここに登場する一人一人の背後で働かれる神の摂理を見る。一人一人の何気ない行動が、また罪人としての愚かさまでが神の御手にあって扱われ、一つ一つが繋ぎ合わされて、神の御業の完成へと向かわされていく。これがヨセフ物語のテーマ。神は、今も全く同じように働かれる。神は決して何も語らず、何もしておられないわけではない。私たちの真ただ中に介入して、私たちが御自身の摂理の中で扱っておられる。神を信じる私たちにとって偶然ということはない。私たちには隠されてわからないことがたくさんある。しかし、すべてに何らかの意味がある。「イスラエル（ヤコブ）は、彼の息子たちのだれよりもヨセフを愛していた」：3。この偏愛の父の姿を、ただ年老いた父なのだからと許容できるほど、ゆとりのある兄たちではなかった。父も、自分の子供達の心の葛藤、ねたみを十分には把握していない。17歳のヨセフもお兄さんたちの気持ちを理解していない。「ヨセフは彼らの悪いうわさを父に告げた」：2。彼もまだ成長していなかった。こういう不完全な家族が神の御手の内に置かれている。私たちの場合も問題は多くあり、複雑な事が多くある。高い壁があり望みを失いそうな時もある。しかし、そんな時こそ、自分が神に生かされている恵みをしっかり覚えたい。私たちの生涯は、初めからなるようにしかならない生涯ではない。どこからも神の助けが伸ばされず、神の恵みの介入のない生涯ではない。神は生きておられ、私たちの一切を確実に導かれる。突然不思議な力を経験することもある。神の時が満ちると、その時こそ具体的な展開がある。それまで私たちは「待つ」事を学ばなければならない。しかし必ず神の最善の時がある。神の時が満ちるまで神は何もしておられないのではない。神は、御自身の御計画に沿って御業をすでに始めておられる。そのすべての行程を私たちが知らないだけ。御心かどうかわかりにくい微妙な問題もある。その時こそ、神に祈り、問いかける必要がある。神の答えをいただくまで、求め続ける必要がある。どのような形でなのかはわからない。しかし神は必ず応えてくださる。間違った事をしている時、神の御心ではないと示され問われる。これは幸いな事。いつまでも、誤ったままでいることはできない。どこかで歩みが止められる。悔い改めて、新しく神との関係を確認して進む必要がある。自分のあり方が、神の祝福や将来の恵みを妨げていることもある。愛に満ちた神は、私たちの人生を本当に祝福しようといつも望んでおられる。しかし、私たちの誤った生き方が、神の祝福を邪魔していることがある。その時は、一刻も早く神との関係を正さなければならない。ある時は、ある方向に進むように御霊が促して下さることがある。問題や障害がすべて取

り除かれて、すべて順調に進むとは限らない。しかし、それらの障害ですら乗り越えられる不思議な平安な力を主は与えて下さる。人生の中で、人との出会いも偶然ではない。あらゆる事が重なり、組み合わされて神は益（私たちの成長、神の御業が現れる）として下さる。ローマ8：28。偶然ではない神の不思議な導きがある。神は生きて働いておられる。私たちを愛して下さるこの神を決して無視しないようにしたい。すべての出来事の中で神の臨在を覚え、神を恐れたい。信仰の目で過去を振り返り、信仰の目で今を見つめ、信仰の目で将来を見据えて行きたい。それが、神の摂理（御支配、御計画）を信じるという事。「あるとき、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった」：5。私たちも、不信感を抱くと、どこまでも相手を信頼できなくなる。ヨセフが見た夢＝「私の束が立ち上がり、しかもまっすぐに立っているのです。見ると、あなたがたの束が回りに来て、私の束におじぎをしました」：7節。これにより、兄達は、ますますヨセフを憎むようになった。：8。こうした出来事の背後にも神がおられる。じっと見ておられる。私たちの罪は、やがて具体的な形で神に取り扱われる。蒔いた物を刈り取らなければならない。しかし、それにより、神の御計画が妨げられることはない。神は、御自身の御業を妨げようとする人間の罪や悪魔の攻撃でさえ見事に扱いつつ、完璧に御業を達成されるお方。と同時に、私たちの魂は神から問われ続ける。悔い改めるまで平安はない。兄弟たちは、やがてヨセフとの和解へ導かれる。神の摂理の御業が完成へ向かう。背後でなされつつある、また今正になされている神の御業への霊的な自覚が必要。あらゆる事に神の摂理（御計画、御支配）を覚える必要がある。何も起こりそうにない状況でも、そこにある神の御手を認めるのが信仰。事実、神は働いておられる。神は歴史を支配し、そして私たちの個人の人生の一つ一つのそばにあって導いておられる。インマヌエルの神は、いつも私達と共におられる方。しかも、神の御計画は、私たちの最善と真の幸いの為に計画されている。ヨセフの生涯もこれから、辛い事が多くあるが、神はそれらをイスラエルの救いの為に働かせられる。私たちも、色々な辛い状況に置かれる時も御言葉にしっかり心を留めたい。理解できない事、辛い事のすべての背後に働かれる神の摂理に信頼して神の御心を待ち望みたい。私たちの間で難しいと思える事も、神の御心であるならば、私たちの祈りを必ず聞いて下さる。神の時に。主の御業はすでに開始されている。神の摂理、御計画、御支配に目を留め、私たちの回りの事の背後におられる神を心に留めて一步一步、歩もう！「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」